

## 第3分科

### 「東アジアで語り合うシニアの地域社会活動」

吉田 成良

(高齢社会 NGO 連携協議会 専務理事)

#### 〔パネリスト〕

馬 利中：上海大学教授、上海万博開催大学代表委員

李 誠国：慶北大学医学部教授、「大邱老人の電話」会長

金 恵媛：山口県立大学国際文化学部准教授

山口 昌子：福岡市民生委員・児童委員協議会副会長

書記

上原 隆夫：高齢社会 NGO 連携協議会



**吉田：**このフォーラムが東京以外で開催されるのは福岡が初めての開催です。私はこのフォーラムを共催する高連協の専務理事で、この第3分科会のコーディネーターを務めさせていただきます。私は、福岡市や北九州市さんと高齢化問題、特に東アジアとの交流会議などに関わって約20年、福岡でこういった分科会もできて大変嬉しく思います。テーマは、福岡という土地柄から、高齢者の社会参加活動について東アジア地域の現状や活動の進め方について語り合おうというものです。ここには、近隣の東アジア地域から講師として上海大学の馬利中先生、また、韓国の著名な李先生、李先生は大邱（テグ）市にある、慶北大学医学部の教授です。それから、山口県立大学の准教授・金恵媛さん、

今朝山口市から新幹線で来て頂きました。そして、最後になりましたが、皆様方のお仲間の代表で民生委員の山口昌子さんです。福岡でのシンポジウムですから、最初に山口さんにお話し頂いて、次に馬利中先生、それから、李誠国先生、最後に金先生にお話頂きたい。金先生からは、在日韓国人の高齢者についてお話頂きたいと思います。ある特養で在日韓国人の方が年を取って認知症になり、日本語が出てこないんです、ハングルはヘルパーさんも対応できない、という問題を伺ったことがあります。このフォーラムを共催している AABC (アジアン・エイジング・ビジネス・センター) は、フィリピンやインドネシアの方も含めて日本でヘルパーとして働きたい人達をトレーニングする仕事もやっておられます。国際化時代だということを念頭に、この分科会では、他の分科会とは一寸違えて、講師各位のお話を聞き、考えていきたいと思います。

それではまず、先生方に 15 分から 20 分位パワーポイントでお話を伺います。その後、15 分のお茶休憩を取り、後半は、参加者皆様との時間にしたいと思います。それでは、山口さん簡単な自己紹介も含めてお願い致します。

**山口昌子:** 皆さまこんにちは、只今ご紹介頂きました福岡市民生委員・児童委員協議会の山口と申します。本日は隣国の先生方と一緒にこの分科会に参加できることを大変光栄に存じます。私がこれまで 26 年間民生委員を続けてまいりました。最初は生活保護の調査だけでしたけれども、現在は、高齢者から赤ちゃんまでの地域の福祉に携わっております。

福岡市の人口は 2008 年は 138 万 2563 人、世帯数は、65 万 2563 世帯、平均世帯人員は 2.12 人、それから 0~14 歳までが 19 万 3725 人、15~64 歳までが 95 万 7148 人、65 歳以上が 23 万 1690 人で、高齢化率は 16.8%です。高齢者世帯は、単身世帯が 31.0%、夫婦のみの世帯が 28.7%、その他の同居などの世帯が 40.4%です。

民生委員・児童委員のルーツは、1946 年に生活保護法の制定と同時に民生委員という名称になり、1947 年に児童福祉法が制定され、民生委員・児童委員という名称になりました。1948 年に民生委員法が制定されまして、法に裏付けられたボランティアとなりました。民生委員法に裏付けられたボランティアですが、厚生労働大臣が委嘱いたします。民生委員は、社会福祉法に定める福祉事務所、その他の関係行政機関の業務に協力することという位置付けがされておりますが、民間ボランティアとして民生委員には給与を支給しないという定めがあり、民間のボランティアであると思います。活動の目的と基本姿勢は、自主性・奉仕性・地域性です。〈以下民生委員の役割、選任等について説明(省略)〉

私たち民生委員・児童委員はあらゆる分野の福祉活動に携わっておりますが、このシンポジウムのテーマであります高齢化に対する取り組みについて、3 つの例をお話したいと思います。

その 1 つ目がふれあいネットワーク活動です。この目的は高齢者 65 歳以上、あるい

は障害者の家庭で、一人暮らしなど見守りが必要な所帯に対する地域支援活動です。活動主体は、理事会、民生委員児童委員委、公民館、老人クラブ、ボランティアグループなどの相互の支援により校区社会福祉協議会が推進しております。見守りが必要な高齢者や障害者の世帯を把握しているのは民生委員児童委員で、活動の推進役を担っております。校区を町単位でネットワーク班を結成し、班を中心として活動が展開されております。班ごとに訪問する対象者を決め、1人の対象者に複数の訪問員を配置します。月2回から週1回のペースで訪問しております。主な内容は、安否確認、ゴミ出し、買い物の手伝い、話し相手、在宅福祉サービスの紹介、あるいはこれ以外にも、頼まれた様々なお手伝いをしております。この活動には、訪問員あるいは推進員と呼ばれる人の力を得ております。福岡の実施状況ですが、146校区のうち129校区で実施されており、見守り対象者は、1万8644人、ボランティア地域住人は、8120人で取り組んでおります。

次に、ふれあいサロン活動の紹介をいたします。閉じこもりがちな高齢者（65歳以上）や障害者等の地域で孤立しがちな人たちとボランティアなど定期的に集まり交流を図ります。福岡の実施状況ですが、146校区のうち131校区で実施されており、は2009年3月現在利用者はのべ7万6771人、ボランティアは、4万414人。活動内容は、ゲームや茶話会、レクリエーション、手紙づくり、健康体操、健康指導、また悪徳商法にあわないための勉強等をしております。この活動も、民生委員児童委員が中心となり多くのボランティアの協力のもと月1回～4回の割合で実施されております。

最後に、災害時要援護者台帳調査について紹介いたします。これは、災害弱者である寝たきりや一人暮らし高齢者や障害者について台帳を作成して災害発生時の避難誘導や援護に当たるための準備をしています。災害においては、障害者については障害者手帳2級以上、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由などで協力を必要とする方です。2008年度の調査では、高齢者1万357人、障害者4024人が台帳に登録されております。今後の課題といたしましては、ネットワークの拡大ということが挙げられております。つまり、消防、警察、関係行政機関、自主防災組織、地域コミュニティなどのネットワークを拡大することが課題となっております。ありがとうございました。

吉田：ありがとうございました。民生委員のご紹介と同時に福岡市の概要についてもお話し頂いて、大変ありがとうございました。それでは、続いて馬利中先生お願いします。

### 馬利中：上海市の高齢化事情

皆さんこんにちは、ご紹介していただきました、上海大学の馬と申します。これから上海市におけるシニアの地域活動、社会活動について説明します。

今日は10月1日で、中国の国慶節です。日本語で言うと建国記念日で、今年は60周年ですね。中国で言うと高齢期に入りつつあります。また、2010年上海万博のカウンtdownでいうと212日に迫りました。上海万博のテーマは、「Better City ,Better

Life（より良い都市、より良い生活）」です。高齢者を含む市民生活の質の向上を期待させるものです。2010年上海万博の理念は、2005年日本で開催された「愛・地球博」からバトンタッチされたものとも言われます。今日の中国の経済成長の動きからみると、日本の昭和30年代から40年代によく似ています。ですから、中国は、北京オリンピックと同様に上海万博の開催に非常に熱心です。

私は中国万博誘致の時の大学代表として、誘致活動に参加し、朱鎔基（しゅようき）主席（当時）のお願い状を預かって、福田官房長官（当時）に渡しました。

東アジアは、文化的によく似ています。日中韓三国は短期間で多産多死から少産少死へ急速に人口転換を実現させたことは、西洋諸国と異なり東アジアの特徴と言えるでしょう。

高齢化率を見てもフランス・スウェーデン・イギリスなどの西洋諸国は、7%から14%になるのに50年から100年かかっているのに、日中韓の場合は20~25年前後になります。人口の比較でも分かるのですが、中国では、2005年の0-14歳が約25%ですが、2025年には約18%になります

上海市は中国の社会経済の最先進地ですが、1979年に高齢者率（65歳以上）が7%となり、中国全土に先駆けて高齢化社会に突入しました。全国平均のそれより20年、北京市、天津市これらは直轄地ですけど、よりも10年も早い。人口開発の視点から考えれば、上海の現状と対策を分析することで、中国の少子高齢化の趨勢とそれが社会経済発展にもたらす影響を理解できると思われまます。2008年末現在、上海市の60歳と65歳以上の高齢化率はそれぞれ21.6%と15.4%で、80歳以上の中国で言う後期高齢者は、老年人口の24.9%です。20年前の倍になります。人口ピラミッドを見ると中年太りのビール腹と言われています。中国では一人っ子政策の影響で、一人っ子の親が高齢者になる時は大変な問題で、心配しています。中国の高齢化の主な原因は、少子化です。少子化が7割の原因、寿命伸長は3割の原因です。上海市の平均寿命は、2008年統計によりますと、男性は79歳、女性は83.5歳。男性は日本と同じくらい、女性は日本に比べ2.5歳くらい年下です。革命後の1953年の第1回センサスの時の上海の平均寿命は、男女ともに60歳前後です。

上海の世帯規模は、1964年は1世帯平均4.5人だったのが、2008年には2.6人となっています。上海市で高齢化のピークは2030年です。主な原因は、一人っ子の親がみんな高齢者になるからです。

### 上海市老齡事業發展事例

中国では、年金制度はほとんど整備されていません。都市部のサラリーマンは大丈夫ですが、これは都市高齢者の約7割くらいです。上海市は先進地域なので自分なりの年金制度に入っています。

いま上海市の老人ホーム数は582ヶ所、ベッド数は80554床、上海60歳以上高齢者

の 2.7%分です。年間に大体 10000 床くらい増やす計画になっています。老人ホームの整備には、政府からの予算のほかに宝くじの収益金や民間投資が約半分を占めています。

#### ○老人在宅サービス事業

##### ①老年日間サービスセンター

これは日本で言うデイサービスセンターです。利用者が通いで利用する施設です。上海市の老年日間サービスセンターは 229 ヶ所あるのですが、そのうち、101 ヶ所は 2008 年に新しく整備されたので 6400 人が利用しています。

##### ②社区助老服務社

社区とはコミュニティ（地域社会）のことです。社区助老服務社とは社区の在宅老人へのサービスを提供する組織ですが、これも 234 ヶ所あり、ヘルパーは 3.2 万人います。介護が必要な高齢者 17.7 万人いますが、そのうち、10.3 万人が政府の手当でサービスを受けています。

##### ③老人配食サービス

上海市内では、去年 1 年間で老人配食サービスステーションが 200 ヶ所整備されました。全市で 216 ヶ所、市内在住の 1.9 万人の一人暮らし高齢者や自ら調理することが困難な方に安否確認を兼ねて、昼食などをご自宅までお届けするサービスを提供しています。

##### ④「純老家庭」老人に安否挨拶制度

上海市には 60 歳以上の「純老家庭」（親子とも老人）は 86.38 万人。80 歳以上老人は 24.26 万人で、うち、一人暮らし老人は 18.8 万人です。2004 年から、社区のボランティア、居民委員会幹部による「純老家庭」の老人に安否挨拶運動を行っています。いま、15.3 万人の老人に毎日その安否挨拶、20.5 万人の老人に毎月一回「精神慰め談話」が行われています。その他、一人暮らしなど「純老家庭」に救急援助用のベルの設置などを行っています。

#### ○老人優待制度

##### ①70 歳以上老人に無料乗車カード発布

2008 年 8 月 1 日から上海市の 70 歳以上老人に無料乗車の「敬老カード」を発布しました。2008 年末、136.97 万人の 70 歳以上老人が受領しています。さらに、ラッシュアワーの時など、高齢者の安全を考え、70 歳以上の高齢者専用のバスも用意されました。

##### ②100 歳以上老人に栄養手当

2008 年 1 月から 100 歳以上老人に対する栄養手当が 300 元/月にアップしました。

##### ③冬期の老人入浴サービスなど

上海にも日本の銭湯のようなものがあるのですが、それを利用するときの利用券を 70

歳以上に渡しています。入浴時の手伝いも行っています。

### ○敬老教育

上海では、孫が自分の祖父母の足を洗い、コミュニケーションを図り、敬老の意識を高めるなどがあります。街角でも、たとえば駅など混んでいるところには必ず老人専用の椅子を配置したり、専用の改札機を設置したりしています。

敬老教育のキャンペーンも行われています。2008年キャンペーンで孝親敬老模範家庭（親孝行と敬老意識が高い家庭）が1077世帯、孝親敬老模範個人（親孝行と敬老意識が高い個人）220人が選出されました。また、10月の（重陽節）敬老の日に、上海テレビ12時間連続で「九九関愛—重陽節連続番組」を中継、「孝親敬老」家庭と個人を表彰するなど、敬老意識の啓蒙を行っています。

### ○銀齡（シルバー）行動

2003年から開始した大都市、上海など東部沿海先進都市の60歳で定年退職したお医者さん、技術者など知識高齢者による、「西部の都市開発」に技術協力を提供するプロジェクトです。新疆ウイグル自治区の現場へ医療保健、教育などの分野で技術援助・指導を行った上海市の知識高齢者が195人います。平均年齢62歳で、一番年長者は72歳です。

### 上海市のシニアの地域社会活動

上海の老人たちの意識にあるのは「老有所為」（老いて為すべきことがある）。国の老人対策でも第一の方針に示しています。体力、専門知識、興味により、定年退職後も引き続きその能力を生かし、社会活動に参加するなど、自らより良い生活、人生を持つということ、上海万博のテーマと合体しています。上海の老人活動状況については、一般の観光客でも、社区で子どもたちに教えている様々な老人を見ることができ、また公園、交通管理をしているのも老人である。老人たちが創った企業、大学、老人クリニック等も大変多くなっています。

また、上海市には現在直接、経済生産活動に参加している高齢者は約40万人おり、彼らが社会生産活動を続ける理由は経済的理由、健康のため、生きがいの追求です。

地域コミュニティー（社区）の公益活動に参加している高齢者比率が極めて高く、長寿社会になった社区が上海の高齢者の「社会参加・生きがいづくり」の主な場所になっている。高齢者たちは長寿社会地域になっている社区で治安・交通管理、衛生・環境の維持、近隣のトラブル仲裁などの公益活動をしています。

今、上海の高齢者たちも万博に大きな関心を持ち、万博を迎えるための環境整備、美化活動が上海の高齢者の「社会参加・生きがい」活動の主になっています。上海の地域ボランティア団体は3000ぐらいあり、健康で元気な高齢者がリーダー役を兼ねて多数

参加しています。

ボランティアの内容は、

家庭訪問・電話で老人と挨拶を交わす  
話し合いなど精神的な慰めサポートを提供  
老人に野菜、身の回り品をついでに買うなど、  
能力に相応する奉仕を提供

老人の体・生活になにか異常が起こった場合、地域の老人協会に報告等があります。彼らは、病弱な老人の面倒を見ることは、自分の老後のための「保障」でもあると考えているのです。

### 生涯学習

生涯学習への関心も高く、老人大学に書道、舞踏、調理、武術、コンピューター、バレエ、マッサージなど色々な講座が開設されている。男性の退職者には、料理が人気です。2010年の上海万博開催準備のため英語学習も人気があります。

### 趣味活動

社区に必ず一つある上海の老人活動センターでは、生け花、健康づくり、将棋、撮影会、旅行、健康相談、法律相談、結婚相談などをおこなっています。又、海外にも出演しているシルバー（夕陽）芸術団は合唱や舞踏で国際交流を図っています。

高齢者の五つの「老有」を保障することが中国の高齢者対策の基本方針になっています。

- 「老有所養」 — 高齢期の扶養
- 「老有所医」 — 高齢期の医療
- 「老有所為」 — 高齢期の社会参加、生きがい
- 「老有所学」 — 高齢期の生涯学習
- 「老有所楽」 — 高齢期の趣味娯楽

今上海では、高齢者のお見合いパーティーの番組をTVで週1回やっています。上海万博のテーマ「Better City ,Better Life」には、高齢者のQOLの向上も入っています。その中には、再婚は非常に良いことだというのがあり、10月の中秋節には、高齢者の集団結婚式も行われ、TVで生中継されています。

中国と日本は、文化、伝統などに共通のところが多いです。

2010年上海万博を通じて、世界に中国の素晴らしさを見せるばかりでなく、世界、特に一衣帯水隣人—日本の素晴らしさ、特にツナミのようなエイジングを乗り越える経

験・知識が中国に伝播することを期待しています。

最後に皆さん、上海へは飛行機で1時間15分で行きますので、来年是非上海万博にいらしてください。

吉田：続きまして韓国の李先生お願いします。

李誠国：先程紹介していただきました。韓国の大邱から来ました李と申します。よろしくお願ひ致します。釜山から福岡まで飛行機で30分くらいの距離です。

本日は韓国・大邱のシニアの地域社会活動をお話したいと思います。

### 韓国の高齢化事情

先程、上海の馬先生から中国の高齢化の説明がありましたが、韓国も急速に高齢化が進んでいます。2000年に人口における高齢者の割合が7.2%になり高齢化社会に突入しました。2008年には10.3%になっています。2018年には14.5%となり高齢社会になり、2026年には20.8%となり超高齢社会になります。また、将来的には2050年には37.3%となり日本の割合を超えてしまうと韓国の統計庁で予測しています。

韓国では現在、都市部と農村部との高齢化格差が問題になっています。都市部はまだ若い人も多く高齢化社会になっていない所もあるのですが、農村部では65歳以上の方の割合がひどい所だと48%位まで進んでいて、高齢者しかいない状況です。

平均寿命についてですが、2008年では、男性が約76歳、女性が83歳です。世帯についても高齢者一人暮らし世帯が増えています。

韓国では、去年8月に日本と同じように介護保険が始まりました。これは結局医療費の問題です。韓国では、今までは地域や職場でそれぞれに健康保険がありましたが、それらを全部合併し1つの健康保険にして、国民健康保険公団というところで管理しています。ですが、それだけでは医療費が不足、新たに「老人長期療養保険制度」（介護保険制度）を作りました。

韓国では、3年に1度「全国老人生活実態及び福祉欲求調査」というものを行っているのですが、ちょうど先月に2008年度の報告書が出ましたので、その中の余暇と地域社会活動の部分を紹介します。2008年度の調査対象者は、60歳以上が約1万2500人、65歳以上が約1万人です。

過去1年間一番楽しかった活動は、家族と共にしたことが52.4%、友人たちと会うが18.2%、新聞・本・TV・ラジオは9.2%で、この順番は都市部でも農村部でも変わりません。65歳以上の団体活動参加率は、74.5%で内容は親睦団体が一番多く、その次が宗教団体です。韓国は日本に比べると割と教会やお寺などに定期的に通っている人が多いです。65歳以上の生涯学習経験率は、13.3%と非常に低い状況です。少ないながらもどのようなところで学習をしたかという、役場施設や老人福祉施設、宗教機関



が多いです。なぜ低いかというと、今の高齢者たちは、字を読めない方もまだ多いからです。

今後の生涯学習希望率は、65歳以上で22.7%でどのような教育・学習を受けたいかというと、健康管理が一番多く、余暇趣味、です。ボランティア活動の経験の有無は、65歳以上は本当に少ないです。10.1%しかボランティア活動の経験がありません。

ボランティア活動の参加希望率と希望分野は、65歳以上で11.3%で分野は社会福祉、交通安全、環境の分野の順に高くなっています。

65歳以上のコンピューターやインターネットの利用率は、非常に少なく、7.9%しかいません。利用内容は、ニュースや生活情報の入手がほとんどです。

### 高齢者化の地域社会活動

次は高齢者化の地域社会活動について説明します。

#### 1. 高齢者の雇用拡大

韓国では、高齢者の経験を社会的に活用して、高齢者の所得支援をするために社会的に雇用開発に努めています。

具体的には、3年前に高齢者の雇用開発、教育、評価等雇用事業の体系的な支援のために「韓国老人人力開発院」を設立・運営しています。

福祉会館、シニアのクラブ、大韓老人会支部等の民間機関の老人就業斡旋の支援として試験監督官、高齢者ガソリンスタンド員等民間分野で高齢者雇用の開発に努めています。

#### 2. 高齢者就業準備事業

就業したい健康な高齢者に適切な就業を提供して、社会参加の機会を広げて補充的な所得保障を通して高齢者の生きがいを高める老人福祉の主な政策です。

居住地域の市郡区役所、シニアのクラブ、老人福祉会館、大韓老人会などで、65歳以上(ただ、就業類型によって60歳以上も可能)の人が、1日3~4時間、週3~5日勤務、年間5~6ヶ月(2007年以後7ヶ月)勤務原則、月20万ウォン以内で働いています。

高齢者就業のタイプは、共益型、教育型、福祉型、人力派遣型、市場型、等の5つのタイプに分かれています。

今は専門的な仕事ではなく、誰でもできる仕事で広がっていますが、もう少し専門的な仕事も、教育を受けて行うようにすることが必要ではないかと思います。

### 大邱市高齢者の保健・福祉

大邱市は韓国3番目の大都市で、人口は250万人位で65歳以上構成比が9%位です。

韓国で老人長期療養保険制度（介護保険）が施行されてから、老人施設が急激に増えました。高齢社会の老後準備で老人就業を持続的に広げて社会的扶養負担を軽減するため多様な職場を創出して老後の所得を保障しています。

先程の山口先生のお話にも出てきましたが、韓国では生活保護者が多く高齢者全体の1割位います。ですので、生活保護者の福祉も行っています。

### 「大邱老人の電話」(DIRSA)

最後に私が地域の人々の協力で1996年から行っている大邱老人の電話(DIRSA)の紹介をします。

「大邱老人の電話」は老人のための電話相談(老人の心理・健康・住宅等)と安否確認をする老人のための福祉サービスを提供しています。また、関係機関や施設と連携・協力していろいろ在宅サービスを実施しています。一人暮らしなど生活が困難な老人が対象で地域社会の中で安心して生活できるように、介護、家事支援、などの事業を地域社会福祉資源の発掘やネットワークづくりと併せて提供をしています。

介護保険が始まる前は、韓国の老人福祉は生活保護が主でした。虚弱老人は病院以外に行くところがなかったのですが、介護保険が始まってからは、要介護認定された高齢者は、老人福祉センターでデイサービス、デイケア、ショートステイ等を受けられるようになりました。

最近の韓国でも日本と同じように一人暮らし高齢者が増えたこともあり、安否電話の必要性が高まっています。この安否電話は、その高齢者が亡くなるまで継続的に行われ、相手の希望を聞きながらサービスを行っています。現在では大邱市全体で300名くらいの高齢者にサービスを提供しています。安否電話サービスの相談員は、相談者(クライアント)と直接会うことは絶対にありません。様々なプライベートの相談があるためです。

また、韓国では現在訪問医療というサービスは看護師しか行っておりませんが、これからは、訪問医療が重要だと考えており、私が指導している学生(医学部)が週に1回家庭訪問し、基本的なバイタルチェックを行っています。また、慶北大学医療奉仕サークルが月2回地域内老人に無料診断を実施しています。

その他にも、私たちの大学関係では、地域の人々との協働で美容サービスや配食サービス等様々なサービスも行っています。私たちは、大邱市庁、大邱市の保健所、大邱市の精神保健センター、慶北大学校 医学専門大学院等と協力して活動を行っています。ご清聴ありがとうございました。

吉田：最後に金さんお願いします。

金恵媛：こんにちは、山口県立大学の金と申します。本日の私の話は、二本立てで聞い

ていただければと思います。一つは在日韓国人の高齢化のことについて、以前私が神奈川県の川崎市で行った調査を紹介させていただきたいと思います。二つ目は、日本と韓国との相互理解・ふれ合い活動を山口の地域で学生と高齢者など多様な年齢層と行っている活動がありまして、それを説明しようと思います。

### 在日外国人の高齢化問題について

皆さんは在日外国人の問題について聞いたり考えたりしたことはありますか？在日外国人と聞くと労働力という認識が強いのではないのでしょうか。日本の政策を見ていると、高度な専門能力を持った外国人を受け入れたいという姿勢が見られます。外国人を労働力として受け入れるか、移民として受け入れるか。また、在日外国人が高齢化する問題などどう関わっていくかということ、古くから日本にいる在日韓国人・朝鮮人の状況データから考えて見たいと思います。

実際、毎年登録している外国人は、2008年度の年末の数字では、221万人で日本の総人口の1.7%です。毎年持続的に超過し続けています。

2006年頃から、中国（台湾と香港含む人）が韓国・朝鮮人を超えました。全体の割合で行くと、中国が全体の29%、韓国・朝鮮は26%になります。この中で、65歳以上の人口は、5.7%です。これは、まだまだ少ない数字ですが、そのうちの韓国・朝鮮人は、高齢者が多く、100,214名で、外国人高齢者全体の79.7%になります。在日韓国・朝鮮人の中だけで見ると高齢化率は、17%です。

また、どのような資格で日本に在留しているかを見ると、41%が永住者で、戦前から日本にきている特別永住、労働目的などで日本に来て、そのまま在住している者、その他、日本人との結婚・配偶者で、6割以上になります。つまり、滞在ではなく、日本で生活している人々です。日本人の高齢化と同一の問題です。

### 川崎・「在日」高齢者実態調査

川崎での調査は1998年—1999年、来年から介護保険が導入されるというのに、在日韓国・朝鮮人の姿が全く見えてこないということで実施したものです。川崎市は、外国人政策についてかなり努力をしている自治体です。

対象者：56名（主に、女性）、アンケート調査は日本語で行ったのですが、日本語でも韓国語でも読み書きができない方が多くいたため、聞き書き調査で行いました。調査結果で一番大きかったのは、言語が生活手段になっていない。長く日本にいても日本の文化に馴染んでいない。日本の福祉サービスを利用しているか、利用したいかを聞くと、ほとんどの方は断る。訳は、在日韓国・朝鮮人だと分かると差別されるのではないかと考えて、アクセスをためらっている。また、どのようなサービスがあるのか、日本語でも韓国語でも読み書きができないため情報が無くアクセスできないというのがあります。

この調査後私たちは、このような高齢者を地域で繋がりを持たせようということでサービスを始めました。そこでは、「自分が韓国・朝鮮人であることは、恥ずかしいことじゃない」ということを認識してもらう活動から始めました。このことで私が一番感じたことは、「知らない」ということは、とても恐ろしいということです。

### やまぐち韓国研究会 —大学と地域の協働による異文化・異世代交流—

私は、山口に来て5年目になるのですが、山口はまったく知らない土地だったので、ここで何ができるのかとか、どんな方たちが住んでいるのだろうかかなど気になっていました。そこで、先の経験から、「やまぐち韓国研究会」を始めました。会は、2005年に大学の公開講座（地域住民が対象）で始まりました。最初の公開講座は、15時間にわたる講座で、韓国を知ってもらおうというものであり、大学が提供するものでしたので、地域が主体のものではありませんでした。つまり地域の人参加をするという感覚で、自分たちで積極的に何かをするという感覚のものでは、まだありませんでした。しかし、参加者から韓国のことをもう少し勉強してみたいという声があり、二回目からは大学とは関係なくなるけど、皆で始めたのが韓国の関係研究発表です。皆さん各自で調べてきて発表する、場はどこでも良い。皆さんは、それでよろしいということで始まりました。

身分制度、絵本、ことわざ・慣用表現、陶芸、朝鮮通信使 など、様々な学習テーマがありますが、興味があることを全て皆さんが調べて発表しています。また、近いから自費で韓国へスタディーツアーに行ったりもしています。ツアーには研究会の年輩者だけではなく学生も同行し交流しながら行いました。学生も地域住民の年配者が真剣に勉強している姿勢を見て、刺激を受けました。年配者は、事前によく勉強しているため、大抵のところは緊張した様子もなく見学していましたが、板門店に行ったときだけは、非常に緊張していました。対して、若い学生は、そのような緊張が無く、ペースをして写真に写っていたりしました。その差はなんだろうと後に討論したのですけれども、どちらも有りではないかということです。

また、会員の方で、朝鮮通信使の勉強をしている方がいますが、日韓交流の原点である広島県鞆の浦にスタディーツアーに行きました。学生はスタディーツアーというと、ただ遊びという感覚なのですが、事前に勉強会をしてから行こうと年配者が提案をしてくれたことにより、学びの多いスタディーツアーになりました。

その他に、「やまぐち韓国語・日本語弁論大会」を学生と会が共催したりしています。

このようにこの研究会によって、世代間交流と国際交流が山口の地域で盛り上がったと思います。そして、高齢者が若い世代に与えてくれることの意義、例えば、通常のゼミ合宿は、ゼミの学生と指導教員だけが行くものですが、年配者も一緒ですと、大学時代はいかに素晴らしいか学生として自信を持つなど、就職活動のアドバイスをしてくれたりします。

最初は大学が、地域貢献のために行ったものが、地域の方たちの自発的なグループ活動になり、地域の方たちも自己満足で終わるのではなく、若い世代に何かを還元しようという活動になりました。そして大学も、地域の方に大学施設を提供するようになりました。これを考えると3つのキーワードが見えてきます。

○**交流**：一人でできる人は、なかなか少なく、すぐにやめてしまうことが多いので、孤立しないで皆でやる、また地域間や世代間に広げていくことが重要だと思います。

○**社会貢献**：大学のように地域を支援する働きが重要だと思います。私は、この活動を通して「地域の教育力」というものを一番感じました。

年輩者は、学生など若い世代に、様々な視点から提案をくれる大きな存在として活躍していますし、年配者は学生たちに色々と教えることで、自己優良感を感じているようです。

○**プレ社会経験**：就職活動を控えた学生にとっては、これらの活動が良いプレ社会経験になり就職活動にも役立っています。

最初に申しましたとおり、人間は知らないといけないということがあります。これは外国人との異文化交流もそうですし、世代間の交流にも当てはまります。また、地域の埋もれているものも皆の力で積極的に発掘していけたらとおもいます。ありがとうございました。

**吉田**：この分科会の課題、内容、目的等について、金さんにまとめていただいたようで、恐れ入りました。皆さんも地域活動や近隣との文化交流活動を行うときは、金先生の 방식을参考にされては如何でしょう。

以上、それぞれ4人の方々にお話をして頂きました。高齢社会の問題だけではなく、国際交流や世代間交流を含めてお話を頂きました。時間があまりなくなりましたが、それでは、質疑応答に移りたいと思います。どなたかご質問があれば、手を挙げて頂ければと思います。

**質問者1**：私は、母の介護が終わってからお料理教室に通い、近所の人と始めたのが料理教室でした。皆が寄ってきて45年位になりました。あるとき、ご主人を亡くして一人暮らしの参加者から、「今日は、料理も楽しいですが、皆さんと話せたことがとても楽しかった。このようなつなぎ（交流）をもっと持ってもらいたい」といわれたのをきっかけに、ふれあい昼食交流会を始め、そちらも35年になりました。このような127のグループが毎月1回やっている会は全国的にも珍しいです。それが発展しては配食サ

ービスも行うことになりました。今では毎日 50~60 食の配食をしています。「会」はいろいろな活動を生みます。

このような活動をするうちに、北九州市の市長とイギリスやスウェーデンの福祉の視察に行く機会がありました。福祉の先進国の現場を見て、日本とのあまりの違いにぎょっとしました。とくに心に残ったのがオープンキッチンでした。大きなオープンキッチンを作り、赤ちゃんからお年よりまで、要介護者からお見舞いの人や訪問者まで、誰もが一緒に食事を取れる場所を作りたいというのが今の夢です。

こういう活動は、私一人の力ではなく地域の人の協力無しでは出来ません。特に毎日食事を配達してくださる男性陣には頭が下がります。現在は 42 人のキッチンスタッフと 8 名の男性配達スタッフがいますがこのように、人と人とのつながりや地域の協力や応援に感謝しています。これからも出来るだけ続けて行きたいですし、若い世代の育成にも力を入れたいと思います。

**吉田：**いいお話をありがとうございました。スウェーデンでは大きな高齢者施設では必ずオープンキッチンがあります。日本は介護保険がなまじ細かいところまで既定したり、行政の縦割りでなかなか難しいのが現状です。もっと基礎自治体の権限で出来るようにしないとといけないと思います。そのためには、高齢者や地域リーダーの方々が仲間の声を集めて行動していくことが必要だと思います。

先ほど韓国の「大邱老人の電話」の説明をしてくださった李誠国も配食サービスも行っていきます。同じボランティア活動家としての共感する話もたくさんあると思います。それを伺いたいと思います。

**李誠国：**私たちが配食している一人暮らし高齢者は 20 人以上いるのですが、その方たちが一番望んでいるのは話し相手です。毎週 1 回学生たちが訪問しているのも非常に喜んでいきます。今は、配食するだけでなく、楽しんで食事をするプログラムの必要性を感じました。今は、事務所に高齢者を連れてきて皆で食事をするという活動も行っています。また、さらに推し進めて、栄養士の協力で一人ひとりに合った食事を提供するという言うことは始めています。やはり、食事はとても重要なことだと思います。

**吉田：**ありがとうございました。そのほかに質問はありますか？

**質問者 2：**私は山口さんと同じで現在、民生委員・児童委員をやっているものですが、先ほど中国や韓国の先生の貴重な地域福祉活動のお話を聞いて大変勉強になりました。

2 つ質問させていただきます。

1 つ目は、日本では、民生委員・児童委員は地域福祉ボランティアとして活動していますが、中国や韓国には制度化されたボランティアはいるのでしょうか？

2つ目は、中国では一人っ子政策の影響で将来高齢化の問題が深刻化するのではと思ってしまうのですが、どのような見通しなのでしょうか？

**李誠国**：韓国には民生委員・児童委員のような役割の方は、地域の各役所に1人ずつおり社会福祉を担当していますがボランティアではありません。実際のサービスのほとんどは、地方自治体から委託を受けた民間組織が行っています。

**馬利中**：1つ目の質問についてですが、中国では住民委員会というものが各自自治体にあり、そこには必ず民生委員会というのがあり福祉活動を行っています。ただ問題として都市部と農村部ではサービスに大きな格差があります。

2つ目の質問についてですが、中国の人口高齢化は、人口抑止政策を優先させたがため、他の先進諸国に比べ独自の異なる特徴を持っています。本来自然には、経済が発展したことにより子供をつくる意識が変わって少産になるのですが、政府は、経済と人口のバランスがとれていないため、一人っ子政策を続けていました。しかし、今は都市部ではその看板を下ろしています。上海市では結婚したら二人子供を産もうというキャンペーンをしていますが、若い世代は一人しか子供はいらないとか子供は一人も作らないという意識になっています。当面は大丈夫ですが、2030年頃に高齢化に伴う年金問題が心配されています。上海では、日本などの高齢化先進国の先進事例を習って高齢化対策をスタートさせたところ です。

**吉田**：ありがとうございました。日本でも年金が成熟するまでに25年もかかりましたから、上海もこれから高齢化対策をスタートして行けば20年～25年もすれば、成熟した年金制度が出来ていると思います。馬先生の補足をしますと、日本やヨーロッパなどの先進諸国は経済が豊かになってから高齢化が来ましたが、馬先生が言われているように、中国・上海は経済が豊かになる前に高齢化がきてしまった。

金先生どうぞ。

**金恵媛**：本日のテーマを振り返って考えますと、高齢者が地域社会においてどのように活動していくか、あるいは地域の一員としてどのような生活を送っていくかについて本日は、日本・中国・韓国の事例を伺いましたが、時代が変わってきたなという印象を受けます。韓国は急激に発展しましたので、古いものは全部否定するという風潮があります。というと高齢者は、単に若くないと否定的なとらえ方になりがちです。そのような現状で日本を見ると羨ましいと思うのは、高齢者も若者もそれぞれ自分の姿を持っているところです。日本から高齢者像が多様であるということをもっと韓国に発信していただけたらよいと思います。また、今までは日本の発信は高齢化対策の先進事例でしたが、これからはその他に高齢者自身が地域の中でいかに活動しているのかの事例も発

信していただけたらと思います。

吉田：ありがとうございました。最後は地元の山口先生に一言お願いしたいと思います。

山口昌子：最後に大役を仰せつかりました。

民生委員の活動は行政と共に歩く活動ですが、色々な問題が生じています。例えば、連絡の取れない一人暮らしの高齢者が家に民生委員を入れないなどということもあります。こういう高齢者の孤独死が大変心配です。また、まだら認知症の高齢者の対応なども困難なケースが多くあります。地域の福祉は非常に幅が広く民生委員だけでは対処できないことも多くあります。そのような問題も地域住民の自発的なボランティア活動で解決できる場合があります。今後高齢化が進み、ますますこのようなボランティアの力が大変重要です。このような活動が地域ネットワークを支えるものだと思います。本日はありがとうございました。

吉田：それでは、所要時間にもなりましたので、分科会を終えたいと思います。本日は皆さまどうもありがとうございました。

